

わけだより

WAKE ELEMENTARY SCHOOL INFORMATION

3月号（最終号）

R7.3.21 学校だより
松山市立和気小学校和気小HPをご覧ください！
<http://wake-e.esnet.ed.jp/>

三寒四温を繰り返す中で、四国池横のモクレンの冬芽が大きく膨らんできました。その様子は、週明けに卒業式を控えた6年生、4月に進級する1～5年生の「よし！」という期待感と重なって見えます。

保護者の皆様や地域の方々のご支援・ご協力を得て、令和6年度の学校教育活動もいよいよ卒業式・修業式を迎えます。今年度も大変お世話になり、本当にありがとうございました。教職員一同、感謝しております。



「小学校を知ることは、未来の日本を考えること」

校長 横田 美佳

先日、ずっと気になっていた山崎エマ監督の映画「小学校～それは小さな社会～」が松山市内の映画館で上映されると知り、見に行ってきました。東京都世田谷区内の公立小学校を約150日、延べ4,000時間取材したドキュメンタリーで、コロナ禍の学校生活の一年間を映し出したものでした。そのオープニングに流れる「6歳児は世界のどこでも同じようだけれど、12歳になる頃には、日本の子どもは“日本人”になっている」というメッセージ。これは、日本の公立小学校で6年間を過ごした監督が、その後、インターナショナルスクールや海外の学校を卒業して実感したことだそうです。日本の小学校で日々行っている日直や係活動、給食当番、清掃など、「自分のことは自分でする」活動は、海外では当たり前のことではなく、児童の「規律と責任」を育てているというのです。また、学校行事への取組を通して、子どもたちや教職員が成長する姿も描かれていました。私は、映画の中の「学校あるある」の場面を見ながら、和気っ子や先生方のことが重なり、なぜだかずっと涙が出そうになる感覚を覚えました。また、教員以外の方々にも見ていただき、感想を交流したいと思いました。

山崎監督は言います。「小学校を知ることは、未来の日本を考えること」だと。来年度から、松山市立の全小中学校に「まつやま型コミュニティ・スクール」が導入されます。本校でも、学校と地域が、未来を担う子どもたちをどのように育てていくのかという目標やビジョンを共有し、具体的な連携や協働について話し合い、教育活動を更に充実させていくことが期待されています。和気っ子も、この一年間、様々な教育活動を通して規律と責任を学び、達成感を味わいました。これもひとえに保護者の皆様や地域の方々のおかげだと、教職員一同感謝しています。本当にありがとうございました。令和7年度も、本校教育にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたします。

〈和気っ子パワーで伝えよう ありがとう6年生集会〉

1～5年生の「6年生ありがとう」の気持ちがかもった全校集会。工夫された各学年の出し物、6年生からのお礼のメッセージが披露され、体育館は温かな雰囲気になりました。会の準備・進行等を担当した5年生の頼もしい姿も印象的でした。



【お知らせ】 3月28日(金)離任式 10:40～11:00
集団下校 11時50分

普段より2時間30分遅い集団登校となります。欠席等の連絡はテトルにご入力ください。